

午後 2 時開会

○事務局（菅野）

皆さん、こんにちは。本日はありがとうございます。

事務局から事務連絡をさせていただきます。本日は、生涯スポーツ課長の中田委員と高齢者福祉課長の篠原委員はほかに公務がありまして、欠席の連絡を受けております。また、藤井委員につきましても、きょうは欠席するとご連絡を受けております。

資料の確認をさせていただきます。本日の次第と席次表が A 4 で 1 枚ずつ、入学案内・願書というものと各学科のカリキュラムの 2 種類、ホチキスどめのものがあります。不足はないでしょうか。

では、事務局からは以上です。高山会長、よろしく願いたします。

○高山会長

改めまして、皆さん、こんにちは。

ただいまより、平成 3 0 年度第 2 回ふなばし市民大学校運営協議会を開催いたします。

本日、船橋市情報公開条例第 2 6 条の規定により、船橋市の設置する附属機関等の会議は原則公開とされていることから、傍聴人の受付をいたしましたところ、傍聴のお申し出がありませんでしたので、ご報告します。

それでは、次第に従いまして順次進めさせていただきます。

初めに、二野社会教育課長より挨拶をお願いいたします。

○社会教育課長

皆さん、こんにちは。社会教育課の二野です。いつもありがとうございます。カリキュラムの検討も始めて、今回、広報委員会とカリキュラム検討委員会のほうのご報告もあると思いますので、皆さんの忌憚のない意見をよろしくお願しいたいと思います。本日はどうもありがとうございます。

○高山会長

課長、ありがとうございました。1 2 月からまた新しいふなばし市民大学校の入学願書配布、応募も始まります。大事な運営協議会でございますので、カリキュラム検討委員会とか広報委員会の報告を聞きながら、よりよい市民大学校に向けて皆さんとまた協議していきたいと思しますので、よろしくお願いたします。

それでは、これより議事に入ります。

議事第1号、平成31年度ふなばし市民大学校募集・入学案内（案）についての報告です。事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（菅野）

座ったまま失礼させていただきます。

平成31年度ふなばし市民大学校募集・入学案内（案）について、ご説明をさせていただきます。資料はホチキスどめしたものをごらんになっていただければと思います。

平成31年度から変わるところが、まず応募期間を12月1日から1月25日としまして、昨年度よりも10日間延長させていただきました。これは少しでも応募者を増やすには、応募期間を延長したほうがいいのではないかという広報委員会からの検討していただいたご意見で、そのようにさせていただきました。

また、カリキュラムの内容についてですが、スポーツコミュニケーション学科が大きく変わる予定でございます。資料の3ページです。スポーツコミュニケーション学科のところを見ていただきたいと思います。公益財団法人の日本障がい者スポーツ協会の公認資格である「初級障がい者スポーツ指導員」という資格が取得できるようなカリキュラムを検討しております。現在、公益財団法人の日本障がい者スポーツ協会と千葉県との調整をさせていただいている最中でございます。この資格を取得しますと、地域で活動する指導者として、主に初めてスポーツに参加する障害者に対して、スポーツの喜びや楽しみを重視したスポーツの支援をすることができるようになります。また経験を積むと中級、上級という上のクラスの取得も可能となっております。

他の学科につきましては、若干内容を変えているところもありますが、おおむね30年度と同様となっております。

以上でございます。

○高山会長

ありがとうございました。

ただいまの議題（1）のふなばし市民大学校募集・入学案内等の説明を踏まえまして、何かご意見等ありましたらお願いいたします。

○松本委員

募集期間を延ばしていただいたんですけれども、1つは広報委員の中に広報の課長さんが来られて、それから田久保さんがいらして、ぎりぎりまで詰めていただいて、とはいえ無理のない範囲でということ日々に調整していただいて、とても助かりました。

やはり川田さんが言われていたように、正月明け、あっという間に15日が過ぎてしまうということで、25日まで延ばしてもらったということは、それなりに効果を期待したいなと思っています。ありがとうございました。

○高山会長

前も申しましたけれども、抽選で落選された方には速やかに連絡していただきまして、2次募集等間に合うようによろしく願いいたします。

議事第1号はよろしいですか。

では、次に議事第2号、カリキュラム検討委員会について、報告ですけれども、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（田久保）

それでは、着座にて失礼いたします。

まず、お手元の資料16ページから17ページ、これは各学科のカリキュラムの変更点を一覧にしたものでございます。それから、その次、18から20ページが第1回のカリキュラム検討委員会での指摘事項を一表にまとめました。これに基づき、平成31年度のカリキュラム素案を各担当が作成したという流れになります。カリキュラム素案のほうはあえて別とじにしてありますので、見比べながらこれからの説明をお聞きいただければと思います。

それでは、カリキュラム検討委員会の概要について、ご報告させていただきます。

第2回目の会議は、第1回のカリキュラム検討委員会において各委員から出された課題をもとに作成した平成31年度カリキュラム素案について、次に申し上げます3点の視点でご意見をいただきました。

まず1点目は、各学科が目指す方向性がカリキュラムに落とし込まれているか。2点目が、定員割れを起こしているスポーツコミュニケーション学科とボランティア入門学科について、次年度の組み立て方や考え方について。3点目は、定員は満たしているけれども、生涯学習コーディネーター学科、ふなばしマイスター学科に関しても、求められている人材活用につながるためのカリキュラムになっているかどうか。この3点についてのご意見を委員のほうからお伺いをいたしました。

私の説明の後、各学科の担当からカリキュラムの改正点と、あわせて今回の委員会の委員からどのような指摘があったかという報告をさせていただきます。

それでは、一般教養からですね。よろしく願いいたします。

○事務局（池田）

私、池田と申します。一般教養学科とボランティア入門学科を担当させていただいておりますので、私が担当している学科を説明させていただきます。

まず、一般教養のほうですが、先ほど田久保が言いました16ページ、一般教養の1で「コミュニケーション」を赤くしています。これはご指摘のあったところで、大きく変えたところですが、あと、細かく変わっているところは後ほど説明させていただきます。

そして、別でつづつてあります平成30年度と31年度の一般教養のカリキュラム、比較になっております。そちらをごらんいただければと思います。

16ページの1番にコミュニケーションということで赤くなっております。こちらについては、31年度の一般教養学科カリキュラム（案）をごらんいただければと思います。

2番として「コミュニケーションの取り方」ということで赤くしております。これは、いきいき学部ですので、仲間づくりということが目的です。最初にまず仲間と早く、仲間づくりのコミュニケーションを取ってほしいということで、一番最初に取り入れました。そして、3、4と「船橋の歴史」と「歴史的人物」、3番は学芸員によって船橋の歴史をお願いしたいと思います。4番は歴史的人物ということで、まだ具体的に決まっていますが、ことし例えば、生誕何年、100年とか150年とか歴史的なそういう記念になる人物を講義したいと思います。

そして15番、「俳句を詠む③」となっています。実はことし俳句を初めて取り入れました。2回取り入れましたが、来年はもう1回、3回として取り入れたいと思います。学生のアンケートを見ますと、何回か続けてほしいというのがありますので、俳句が一番いいのではないかなということで、3回目にお天気がよければ近くの海老川あたりに行って、ちょっと句を詠んでいただきたいなと思っています。これは、散歩したりどこか旅行に行ったときにちょっと一句という、そういう趣味的なものに生かしてもらえればいいかなと思っています。

そして、21番が音楽、こちらも取り入れました。23番は保健師による健康をテーマにした話をさせていただこうと思っています。28番がお金の使い方と貯め方。そして、29番がお墓の話。これはちょっと縁起でもないと思いますけれども、年齢的に皆さん気にする年齢の方が多いので、お墓のことをよく知って、安心して過ごしてほしいということです。

30番が「心の持ちようで人生100年いきいきと」。今、人生100年といわれてい

ますので、心の持ちようでいくらでも、豊かな心で100年楽しく過ごしてほしいというように思っております。

それで、31番までが一般教養の具体的なカリキュラムです。32番から38番は共通講座とか全学科共通するものですので、31項目の中で9コマ変わるということは、ほぼ3割弱変更しています。魅力あるカリキュラムにしていきたいなと思っています。

そして、ボランティア入門学科ですけれども、17ページをごらんください。17ページの右側です。ボランティア入門学科ということで、大きく変えたところが6番の「まとめ」です。そして、別につづってある30年度と31年度の比較です。そちらもあわせてごらんください。

前々回の1回目のカリキュラム検討委員会で、ワークショップも取り入れたほうがいいのではないかというご指摘を受けました。そこで26番から33番まで、ワークショップとそれに関するレポート作成、発表ということで入れました。今まで演習ということでやっておりましたが、今回はグループワークということで変えて行うようにしました。グループワークというのは、話す力とか人を引っ張っていく力だとか、まとめる力、あとコミュニケーションをする力などを身につけてもらって、自発的にボランティアを行えるような、そういう力をつけてもらいたいと思っています。そして、地域のリーダーといずれなっていて、達成感のあるそういう授業にしていければいいかなと思っています。

そして、35番の体験活動。これは②となっています。①は8月、②が10月～12月ということです。実はことしから、10月の半ばから12月いっぱいまで体験活動を加えました。8月に加えて秋も加えました。来年度は10月～12月まで丸々3カ月間みっちり体験活動の期間を延ばそうと思っています。これはやはり学生が体験をもっとしたいというご意見が結構多かったものですから、この期間に取り入れて、もちろんこの授業の木曜日は優先的に授業ですけれども、それ以外はいろいろな分野でいろいろな体験をしてほしいというところから、長期間に設けました。やはり市民大学校の学生であるというときに、こういういろんな施設の体験をするというのは、先方にも学生の看板があるのだから程度信用してもらえるといるところもあるので、この機会にどんどん体験してもらえばいいかなと思っています。

アンケートでは、修了のときに63%が何のボランティアをしていいかまだ行き先が決まっていないという方が多いです。なので、こういう体験をいろいろしてもらって、なるべく自分に合ったものを探していただきたいと思います。

そして、36番のまとめ、「1年を振り返って」です。今までもやっていたけれども、さらに掘り下げて、修了時にこういうボランティアを自分はこういうふうにしていきたいんだというものの道筋をつけてあげられればいいかなと思っております。

前回のカリキュラム検討委員会でご指摘を受けたのは、健康体操など軽い感じの健康のくくりで何か入れたらいいのではないかというのが1つ、もう一つは、子育て支援に関するものを組み入れたほうがいいのではないか、という2つのご指摘を受けました。

それから、先生方からは、活動団体の把握をもう少しして、そういうのも取り入れていいのではないかとということと、大学との連携を考えてもいいのではないかとというアドバイスもいただきました。

市民大学校が今あまり大きくカリキュラムが変わっていないので、ここで少し魅力あるカリキュラムに変えて、入学の応募者を増にしていけたらいいのではないかと思います。そして、地域に行ってボランティアの活動をして、市民大学校を出たんだよという、市民大学校でこういうことを活動していたんだという輪が広がって、よいスパイラルになればいいかなと。さらに、応募者が増えれば本当にいいことだなと思っています。

以上です。

○事務局（菅野）

続きまして、パソコン学科です。担当が大武ですが、本日はマイスター学科の授業で出かけておりますので、かわりに菅野が説明させていただきます。

同じく資料16ページのいきいき学部のカリキュラムの内容を見ていただければと思います。パソコン学科におきましては、「タブレットを使ってみる」という項目が増えているかと思えます。高齢者のICT教育の1つとして、タブレットを使って情報収集をする授業を取り入れたいと考えております。平成30年度から3クラスあったパソコン学科を4クラスにさせていただきましたが、その授業内容の中の1つとしてタブレットを使う授業を取り組みたいと考えております。現在検討している最中です。

もう1つのカリキュラムの一覧を見ていただければと思います。「年賀状を作ろう(1)」とあります。年賀状をつくるという演題にしておりますが、年賀状をつくるには、ワードの使い方ですとか、エクセルですとか、写真の取り込みですとか、そういうことを学ぶため、この「年賀状を作ろう」という演題にしております。

30年度と31年度のカリキュラムの違いは、エクセルとワードのコマ数を減らしてタブレットの学習を入れたということが大きな違いになっております。

次に、17ページのまちづくり学部のほうのカリキュラムを説明させていただきます。順番で、生涯学習サポート学科です。カリキュラムの表は4枚目になります。生涯学習サポート学科は生涯学習コーディネーターを養成する学科と位置づけられておりまして、カリキュラムにつきましてはほとんど変わっておりません。昨年度と比べて、30年度の種類の中に、6番目「学校支援」というものがありましたが、31年度は学校支援のボランティアの学習については削除させていただいたという形になっております。カリキュラムの内容につきましては、大きく2つに分かれていまして、前半に船橋を学ぶ学習をして、後半に生涯学習フェアという生涯学習のイベントを実際に企画をして、人を集めて運営をするというカリキュラムになっております。

検討委員会のほうから指摘されていることが、コーディネーターを養成する学科であるけれども、コーディネーターが活躍をしていないのではないかというようなご意見があったり、コーディネーターというのは時代にそぐわないのではないかとか、生涯学習フェアは名称がちょっと大き過ぎないかとか、夏に開催できないかとか、いろいろのご意見をいただきましたが、カリキュラムの内容よりも生涯学習コーディネーターに対する意見が多かったと考えております。このコーディネーターにつきましても、31年度のカリキュラムではこの計画で行いたいと思いますが、32年度以降につきましては、もう一度よく考えていかなければならないかなと思っております。

次のふなばしマイスター学科ですが、マイスター学科は大武が担当しております。この17ページの一覧では、「まとめた情報を人に伝える体験をする」ということで書かせていただいておりますが、カリキュラムのほうの一覧は一番最後になります。見ていただきたいと思いますが、下のほうをゼミ形式に変更しております。

マイスター学科についてカリキュラム検討委員会から指摘された、改善したほうがいいのかということをおっしゃっているのが、何のマイスターだかわからない、歴史が多過ぎるのではないかというようなご意見をいただきました。授業の社会科の項目が全部含まれているのが良いのではないかという意見ですとか、船橋というとばか面とかアンデルセン公園をイメージするのだけれども、それがいいのではないかとか。食についてはどうでしょうか。もっと現地に行って歩く授業が必要ではないかというような意見ですとか、マイスター学科で船橋を紹介する学科なので、例えば海外ですとか県外の人に来たときの、1泊2日の船橋を紹介するコースをつくれたらいいのではないかとか、そのような意見をいただきました。

また、修了したらマイスター学科の認定証みたいなものを出していただければいいのではないかとこのご意見をいただいております。これについても32年度以降のカリキュラムで検討していかなければならない項目かなと考えております。

以上です。

○事務局（黛）

次に健康学科、資料では16ページのところでございます。基本的に大きな変更はございませんけれども、健康学科の授業コースにつきましては、大きく分けると、フライングディスクゴルフ、ダーツ、ペタンク、グラウンドゴルフ、パークゴルフ等の競技系のカリキュラムと、あとは3Q体操やしなやか体操、気功等の軽体操のカリキュラム。そして、食事、栄養とか認知サポーター養成講座等の座学のカリキュラム。大きく分けて3つの構成になっております。学生にとっては競技性のある授業が人気でありますようですので、2020年度は東京パラリンピックの正式競技でもありますボッチャを取り入れていきたいと考えております。

続きまして、陶芸学科のほうも16ページのほうにございます。陶芸学科につきましては、総合教育センターを借用して授業を実施しておりますので、生徒数とか使用方法には限りがあります。また、陶芸学科は初心者を対象としまして、湯呑、めし椀から始まり、集大成として抹茶茶碗までの約10種類の作陶を行います。そして、修了後はここで学んだ初歩の技術を地元の公民館とか老人福祉センター等で活動してもらって、スキルアップしてもらっております。初心者が対象ですので作陶の種類についても限りがございますが、講師と相談しながら今後も授業の充実を図ってまいりたいと思います。

以上でございます。

○事務局（田久保）

それでは、引き続きまして、田久保のほうから担当の説明をさせていただきます。

まず、いきいき学部の担当で、園芸学科の1の作物をつくる学科と、それから園芸学科2、お花の2学科をいきいき学部では担当しておりますが、それについては借用している圃場ですとか花壇の面積、それから、月に3～4回で実施できる作物や花の種類が限られることから、こちらのほうのカリキュラムについては大きく変えられないような事情がございますので、31年度につきましても、平成30年度とほぼ同様のカリキュラムを継続していく予定でございます。

それでは、次にまちづくり学部のスポーツコミュニケーション学科の説明をさせていた

だきたいと思います。資料のほうは、まず17ページの項目の一覧表、一番上のスポーツコミュニケーション学科、3番に「地域活動を実践するための資格取得」という、この部分が平成31年度は大きく変わった部分になります。

具体的には別つづりの3ページ目をごらんください。こちらが平成30年度と31年度のカリキュラムの変更を対比しております。スポーツコミュニケーション学科は今回のカリキュラム検討委員会が立ち上がった1つの要因でもあります定員割れを恒常的に起こしている学科でございます。定員割れの原因を探ると、市民大学校開設前後に大きな違いがあり、今回のカリキュラムを作成するに当たり、そのあたりも意識をいたしました。

スポーツ健康都市宣言を行ったことで、開設されたスポーツ健康大学は当時は非常に人気の講座で、定員が現在の倍、約60名、さらにその定員を超える申し込みがあったようです。それは順天堂大学に運営を委託し、講師陣が順天堂大学から来て専門的な講義を行っていたことが現在と大きな違いであると考えられます。

さらに鳥海委員を初め、スポーツ健康大学のOBの皆さんにいろいろお伺いをしましたところ、専門的な講義はもちろんなのですが、担当教授からは地域のコミュニティリーダーとしての志も叩き込まれ、非常に充実した授業内容であったと。志とともに自信を持って地域に出られたというようなお話を伺いました。実際、今市内で活動しているスポーツ団体やいろいろなボランティア団体のリーダーをやっている方は、ほぼスポーツ健康大学当時の修了生でいらっしゃいます。

第1回目の委員会においても、自信が持てるカリキュラムが重要というお話がありました。また、自信につながるものとして資格取得ということもアドバイスを受けましたので、今回、平成31年度のカリキュラムを作成する際に、「自信」と「資格取得」をキーワードにした素案を作成してみました。

このカリキュラムをごらんいただきたいのですが、目的から6個のカテゴリーに分けております。大きな変化をしたのは、上から2つ目の「スポーツリーダーを養成するための専門知識の習得」ということと、3つ目の「地域活動を実践するための資格取得」の、この2点が大きく変わりました。

まず、スポーツリーダーを養成するための専門知識を習得する項目ですが、スポーツという専門分野に特化した学科なので、体育学のご専門の方にご意見を伺い、地域で活動する際に必要な知識と、あわせてリーダーとしての資質向上とコミュニケーション能力の項目を新たに入れました。

また、2点目として、本年度本市では、船橋市パラスポーツ協議会を立ち上げ、障がい者スポーツの普及に政策的に力を入れていくことになりました。そこで、地域で障がい者スポーツ指導者養成も喫緊の課題となることから、まさしくそれはスポーツコミュニケーション学科の本領を發揮できる分野であると、初級障がい者スポーツ指導者資格取得講座を今回の素案として挙げました。

ただ、本件は船橋市独自で実施することが不可能である仕組みとなっておりまして、また、市民大学の授業の一環として実施する形態も、大もとの（公財）日本障がい者スポーツ協会においても初めてのことということで、現在、千葉県と（一社）千葉県障がい者スポーツ協会の共催として協議をしております。少なくとも千葉県の担当課と（一社）千葉県障がい者スポーツ協会からはご理解を得ている状況でございます、現在、（公財）日本障がい者スポーツ協会と詰めている状況でございます。

結果としては、現在のカリキュラムとは大幅な内容変更となりました。スポーツコミュニケーション学科のやることと目的が明確になり、そのために資格取得ができることで学生の応募が増加し、真のスポーツリーダーの養成につながってくればと考えて今回は作成をいたしました。

これにつきまして、第2回カリキュラム検討委員会の席上で、委員からご指摘を受けた点が2点ほどございました。委員からはドラスティックに変更した点は一定の評価をいただいておりますが、これだけ専門的な内容になると、講師が担保できるかというところも大変ですねというところが1点。それから、もう1点は、障がい者スポーツに特化すると何年かしたら需要がなくなるかもしれないので、そこは将来的には高齢者を対象にしたカリキュラムにシフトするというような柔軟な対応を当初から考えておくといいですねという、こういう2点のご指導をいただきました。

一応、以上で各学科の改正点と、カリキュラム検討委員会でのご指摘があった点を報告させていただきます。全体的にこのカリキュラム検討委員会委員のほうからお話があった点としては、今後、学部・学科の改変を検討するに当たり、実験的な試みをもう少しするかと思っていけれども、それほどの差がなく、一貫性がない印象を受けたということが1点。それから、市民大と公民館の役割を考えると、双方のすみ分けが今後とても重要になってくるので、この両方のやることがちょっと見えていないのではないかと。

今後、中教審から答申が出るのですけれども、公民館のあり方が変わる予定が今あるそうです。今後の公民館のあり方を検討する必要があり、そうすると生涯学習コーディネー

ター学科は、当日コーディネーターというより企画のお手伝いということであれば、ボランティア入門とのすみ分けも必要かもしれないということが1点。それから、幅広い講師陣を放送大や包括協定を結んでいる千葉大、東邦大、千葉工大との協定を利用しながら検討するとよいのではないかとのご指摘を受けまして、それぞれの担当が受けたアドバイス、それから全体的なアドバイスを受けて、これから再度2月に向けてこの素案をもとにカリキュラムを検討していくというような状況になりました。

以上です。

○高山会長

ありがとうございました。

1回目のカリキュラム検討委員会での意見、指摘を受けまして、2回目のカリキュラム検討委員会で主に赤字のところを提案されています。先ほどの田久保さんの総括を踏まえ、32年度に向けての課題も出てまいりまして、皆さんもいろいろな意見があると思いますので、ぜひ、忌憚のないご意見、感想をお願いいたします。

その前に、課長、何かありましたら。

○社会教育課長

ちょっと補足させていただきたいと思います。

こちら特に変えたところで、例えば、パソコンであればタブレットとかを考えているというお話をさせていただきましたけれども、これは予算の関係もございますので、これはあくまでも決定ではないということです。それは、当初説明したふなばし市民大学校の入学案内のほうも、カリキュラムが当然変わっていく中で、その説明ですね。学習内容のあたりも、若干変わっていく可能性があるということもあわせて説明させていただきたいと思います。

○高山会長

今のお話では、予算的なこともあり、また決定事項ではないということですが、それを踏まえましてどうぞ、皆さん。

どうぞ、三橋委員。

○三橋委員

前回のときにもご指摘をさせていただきましたが、私自身が、市民大学校ができるとき、以前の須藤さんが課長のときから、ボランティア学科を設立し一緒に立ち上げてきた経緯の中で、ボランティア入門学科の専任講師をずっとやらせていただけてきました。前回も

申し上げましたが、カリキュラム委員の方と直接意見交換をする場を設けていただきたいというご指摘をさせていただいて、今回の改定も、正直言ってきちっと腑に落ちていないわけです。

間近に2回目のカリキュラム検討委員会があつて云々ということで、こういう提案をしたいということでの事務局からのご説明があつて、それに対しての協議をする場があるのかといたら、やっぱりないと。以前、田久保さんはそのことをご心配は要らないとおっしゃっていたのだけれども、結果としては、私は一方的に事務局側に、自分の中で担当させていただくのきちっと落ちていない形で変更させられたということになります。

今まで市民大校に来てボランティア入門学科をずっとやらせていただく中で、カリキュラム検討委員会の発想は構わないのですけれども、直接担当している人間とどうして意見交換をさせていただけないのかというのは今でもやっぱり疑問で、担当している人間とカリキュラム検討委員会の先生方とのやりとりの中でいい形のものにしていったほうがいいのだらうと思いつつも、やはりそういう形になっていないというのは感じました。

○高山会長

ただいまの質問に対して、田久保さん、どうぞ。

○事務局（田久保）

ちょっと聞き違いがあつたようで、私、検討委員会の先生との場所をつくるというのは、次、今後も学部学科の改変に当たっては、現在、かかわっていただいている運営委員会の皆様にもメンバーに入っていたきたいという意味で申し上げました。

今回の件につきましては、少なくとも次年度の分なので、協議というのは私はその先のつもりでお話をいたしましたので、そこがうまく伝わっていなければ申しわけなかったと思います。

○三橋委員

いや、伝わっていないのではなくて、カリキュラムを変えるに当たっては、担当してきている人間ときちっと納得づくで変えるのが本来の筋でしょうという話です。

○高山会長

カリキュラム検討委員会の指摘を受けて、市民大で変えるのですが、実際の運営に当たっては専任講師と相談をしながら進めていくという、こういうスタンスは変わらないのですよね。

○事務局（田久保）

変わらないです。なので、これはここまで来る間に、本来であれば担当と三橋先生との協議の上でのカリキュラムが出てくるのかなというところだったのですが。

○三橋委員

時間的余裕がないし、そういう検討する、電話のお話だけでこうなっているわけですか。

○事務局（田久保）

ちょっとそこは私も先生と直接お話をしておりませんのでわかりかねます。

○三橋委員

だから、時間的余裕がきちっととれていないというお話です。僕に言わせると。

○事務局（田久保）

7月から2カ月の間ですね。

○三橋委員

だから、その間に検討委員会であったことが前回の運営委員会でご報告されて、そのときに僕はどこかできちっと意見交換の場を来年度のカリキュラムを決めるときにあったほうがいいのではないですかというご指摘をさせていただいたけれども、その必要はなくて、ちゃんと双方向の意見が交換できるようになりますよというお話だったのに、結果としては、2回目の検討委員会が開かれる直前になって、こうしますというご連絡をいただいて。

○事務局（田久保）

それは池田さんのほうからご説明いただいてよろしいですか。

○事務局（池田）

確かに時間がなかったということはあるのですが、先生とお話をさせていただいて、こういうふうにしたいと思うのですがいかがでしょうかということで、ご相談はさせていただきました。

○三橋委員

電話で1回あっただけじゃない。

○事務局（池田）

でも先生も、それならいいですよということで。

○三橋委員

それは、もう時間切れだから協議の時間を設けられない、もう来週すぐに2回目の検討委員会があるから、もうこういうふうに提示をしますというお話だったので、じゃあ、そこまでおっしゃるのだったらどうぞという話で電話は終わったと思いますけれども。

○社会教育課長

そのあたり、全く講師とかいろいろかかわっている方に対して何もなくて、これでカリキュラム検討委員会にかけるとい話はないと思うので、そこについては確かに短い時間ではあったわけですがけれども、時間がなかったらそれでしょうがないですねという話があるのであれば、しょうがないかなと思うのが私としては1点。

あと、そもそもカリキュラムは誰がつくるかという話になると、カリキュラムの作成について委託しているようなことがあれば、その委託のところがつくる。市民大学校としては今のカリキュラムは誰がというと最終的には市長がつくる話になると思うのですがけれども、学長ですから。長年の間、事務局の職員がカリキュラムをつくってきて、それだけでは当然力不足な点があるので、各委員の方や担当の専任講師の方に、こんな感じでどうですかというお話をご相談していました。とはいえ、最終決定権は事務局のほうにあると思います。

その中で、何年も応募人数の増えるよう少しでもできないかということで、皆さんにお話しいただいて、諮っていただいて、次年度以降もまちづくり学部であれば、通年で受けられるという形は問題があるのではないかという意見の中でも、とりあえずやってみようということで今回やりました。

確かに増えたところもありますけれども、それほど実質的には増えてなかったところもありますので、今までの渡り鳥みたいな人も増えたという、逆に弊害もあったので、カリキュラムのことをどうしましょうかという話の中で、カリキュラム検討委員会での意見を受けて、市のほうでカリキュラム決定したいということで、この運営審議会に諮って、魅力あるカリキュラムをつくってくださいということで今回お話ししていただいて、事務局としてのカリキュラムをこういう形でつくらせていただきましたので、その点でもうちょっと意見を聞くべきだったなというのは、それはお話しはそのとおりだと思うのですが、こういう形で進めていきたいと考えています。

○三橋委員

認識が違っているのですがけれども、私が市民大学校をつくる時に須藤課長とずっと進めていたのは、ここのボランティア学科のカリキュラムを立ち上げるのをさせていただいて、それ以降もずっとカリキュラムに関しては責任を持って私のほうで検討して、その都度、事務局側とどういうふうに変えていこうかと協議をしながら変えてきています。今、課長がおっしゃったように、事務局でカリキュラムを決めてやってきたということは

ないですね、ボランティア入門学科に関しては。

○高山会長

ちょっとお言葉ですけれども、基本的には生涯学習サポート学科も含めて全部カリキュラムというのは、市民大で案をつくって、そのときに専任講師に相談しながら、それで市民大が決めていく。そのときに時間的余裕がなかったと。ですから、ある意味では電話ではなくて、カリキュラム検討委員会に出した案を担当と三橋先生とよく相談して、了解の上で出していただきましたかった。そういうことを主張されているんですか。

○三橋委員

いや、僕はどういう趣旨でどういうやりとりでというのと、もう一つ、今課長がおっしゃったように、事務局で決めてそれを担当する先生に提案して、それで決めてきたとおっしゃられたけれども、ボランティア入門学科はそうじゃありませんという話。そうではなくずっとやってきましたから、そういう意味でも懸念を、僕は担当としてカリキュラムの中身も含めて責任を持って決めていく側の人間として、最初のご依頼のときからずっとそういう理解で今までやってきていましたので、部分的なところを相談して意見を言うとかというやりとりで今までボランティア入門学科にかかわってきたつもりはなかったものですから、もしそうだとするものであればそれで構わないのですけれども。

ただ、今までずっと責任を持ってカリキュラムの中身のこともやらせていただいていた人間としては、今回に関しては、前回の運営委員会で指摘させていただいたように、カリキュラムの検討委員会との意見の交換みたいなものを、担当する専任講師としてはさせていただきたいとお願いしました。それは十分できるという話だったけれども、やはりそうではなかったということも申し上げて、もうこれでいくということに関しては、私も了解をしましたのでいきますけれども、ただ、こういう形で決まってきたということは一応申し上げておきたい。

○事務局（田久保）

まだこれで決定したわけではなく、まず素案ということで、担当も電話ではあっても、お忙しい先生にお越しいただくのも大変でしょうし、ご相談も差し上げてはいたんですけども、今回は素案でこれが全く決定ではなく、これで進める学科もあれば、今回の指摘を真摯に受けとめて変えていく学科もあれば、このままでいいんだという学科とか、いろいろあると思います。本日はそのための運営協議会なので、特にボランティア入門学科で、もし三橋先生が「いやいや、ここはこれでいいんだよ」とおっしゃれば、それはそういう

結論ということで、私どもはまたカリキュラム検討委員会のほうにご報告をするまでのことで、これは決定ではないということを再度お話しさせていただきたいと思います。

きょうの議題で、私どもからの願いは、この素案がこれでよいのか、よくない点があれば、それこそこれから今度2月に向けてじっくり詰めていけますので、その機会にするための今回のこの議案になっておりますので、その辺をご理解いただいて、もし先生のほうでご指摘いただいて、ここはもっとこういうふうに変えたほうが良いというご意見を私たちもいただきたかったものですから、まだまだ素案の状態だということを再度ここで話しさせていただきたいと思います。

運営協議会の委員の皆様とカリキュラム検討委員会の意見交換は、今後3回目は時間的に厳しいとは思いますが、平成31年度に向けていよいよ大きく変わっていくときには、必ず委員の皆様のご意見はいただかないといけないというのは重々私たちも承知しておりますので、そこはご理解いただきたいと思います。

○三橋委員

今の意見、私が申し上げているのは、運営委員として申し上げているのではなくて、専任講師として申し上げているんです。だから、専任講師とカリキュラム検討委員の意見交換の場があったほうが良いのではないですかというご指摘を、前回は今回もさせていただくということです。中身に関しては、ワークショップ形式にするのか、ゼミ形式でのレポート作成にするのかというのは、方法論なので、目的に関しては腑に落ちています。

だから、今回ワークショップ形式にするということに関してはやり方なので、趣旨はゼミ形式とワークショップ形式と変わりませんので、それは今回新しい試みとしてやるということなので、今回のこの変更に関しては特にこれでやらせていただきますけれども。

運営協議会とカリキュラム検討委員会のその意見交換ももちろん必要かもしれませんが、直接的に指導をしていく、あるいはカリキュラムをつくっていく、指導する側の専任講師とのやりとりの場を設けていただきたいと思いますということを前回は申し上げて、今回も一応申し上げておきたいと思っています。

○高山会長

ほかの方、何かありますか。

○鳥海委員

私はスポーツコミュニケーション学科のかかわりをずっとさせていただいてきましたが、今回はよく見ていただいて、よく努力されているなど感謝しております。

私も一講師でもあります。その講師が、私のことを言っているんですけども、こだわってできるものじゃないですよ。私はこの場で前回にも前々回も言いましたけれども、我々はカリキュラム検討委員会にはさせないほうがいいよと。させると物事を引きずりますよということを言ったことがあるんです。それとこれは別ですよ。市のほうの考え方というのはあるはずですから、その市の考え方によっては、それが改革ですからね。切る、切られる、その受け取り方はそれぞれあると思いますけれども、私はその辺に含んで、前向きに考えていかれたらいいのではないかなと思います。決して個人攻撃ではなくて。そうしないと変わらないと思います。

以前は順天堂大学の専門の先生がお2人ついて交互にやってくれました。私もそのときの今の言葉で言えばルームスタッフをやっていました。ルームスタッフを2年やりましたけれども、それぞれの講師の授業の良い悪いを全部評価したんです。評価して、その都度大学の先生に直接渡して、この先生の授業は学生たちはこういう評価を出していますと。そのぐらいのものをやったらいかがですかということも田久保さんにも言ったことがあります。それによっては消える、新しく生まれる、私はあつて当たり前だろうと思います。そこは勇気を持ってやっていかなければいけないのではないかと思います。

○高山会長

鳥海先生も三橋先生もそれぞれの学科をこれまでずっと支えてきた専任講師として、熱い思いで発言されていると思ってます。

花村委員、何かございますか。手を挙げていましたね。

○花村委員

生涯学習サポート学科で、今これを見ていました。31年度の学科の目的というところです。これを見て、少し前向きになってきて、どういうふうになるのだろうかという期待感がちょっとありましたが、今、結果を聞きますと変わっていないということなので、あれっという感じです。それで、これと実際のカリキュラムは、どういうふうな形でこの目的とリンクして考えられたのかというあたりを一つ知りたいというのがあります。

それから、さっきからいろいろ議論になっていることと関連するのですが、カリキュラム検討委員会は細かい話まではいけなんでしょうから、非常に基本的なこととか、そこには指示もあるでしょうし、点検もあると思うのですが、これは発案する側ですよ。この発案されたものがどういう状況の中で、どういう形でこういう形になってきたのかというのが非常に気になるんです。その辺で、今までもある程度問題は指摘されていたのではな

いかと思いますが、その指摘されたことで今回大いに変わるのかという期待感があつたのだけでも、それが変わっていないということが非常に残念な感じがします。

私ども何を一番期待しているかということ、非常に基本的な問題で、生涯学習とは何ぞやということを引きつらうということですが、このカリキュラムから見えてこないような気がするんです。されているのか、私が理解できていないのかもしれませんが。

実際それが具体的にどういう授業の形になっているのか。それから、それが実践の場に行ったときに、どういう形で社会に影響を与えていくというか、伝わっていくのだろうか、あるいは形にしていくのだろうかというあたりを一つの組み立てとして欲しいですが、今までのものだとその辺が明確ではありません。社会で活動している我々自身もそこがよく理解できないでいたというところがあります。その辺は、こういうカリキュラムでもっとはっきりはっきり輪郭が見えるような形になってくれるといいなど。実際のカリキュラムをつくる現場が、そののところをある程度きちつとしないと新しいものに入れかわらないのではないか。過去のものに引きずられてしまうのではないか。その辺について、何かもし状況を聞かせていただければありがたいなと思います。

○社会教育課長

まさに花村委員のほうからご指摘いただいたとおりでと思います。小手先に当面の目的として、そもそも、まちづくり学部の人気がないというところでカリキュラムをいじらなければいけないのではないかという発想でしたが、カリキュラムをやっているうちに、そうじゃないだろうと。田久保のほうからも前回説明させていただいたと思いますけれども、まず、そもそも市民大学校というのは、成り立ちのところからあって、理念のところはどうなんだと。それから、社会がこれだけ高齢化社会になってくると、それに加えAIなどが発達していく中において、じゃあ何を目指していくべきか。まず、そこを中心に置いて、その中で運営体制を検討して、その運営体制の中でこういうカリキュラムをするというのが、本来の形というのはまさにそのとおりです。多分、花村委員のほうもそこまでできることを期待されていたと思うのですが、正直、今回まだ2回の委員会でそこまで検討することができないので、まずカリキュラムのところだけいじらせていただきました。これを見ると、やはりまだ変わっているところで、目指しているところが見えない。まさにそのとおりだと思うので。

これで、前からもお話ししていましたが、来年度、ことによると再来年度までになるかもしれないですけども、そこでカリキュラム検討委員の方々、国のほうの施策に

も影響力のある方が多いので、その中で、国の動向も含めて、市民大学校はどこを目指していくのかと。その目指していく中で役割分担、例えば市民大学校が目指す、担うべきところと、公民館とかほかの社会教育施設が担うべき役割という、その役割分担をして、そこでカリキュラムを組んでみたいということです。それにつきましては、今後このカリキュラムが終わった後に、目指すべき姿を含めて検討していきたいと思います。まだこれでは、不十分と言われるのはそのとおりでと思うので、もうちょっとお時間をくださいというところです。

○花村委員

私どもコー連協の中で今、いろいろアンケートをとったりして観察しているのですが、やはりコー連協そのものも、時代がどんどん動いているということに対する認識が非常に弱いのです。世の中はどんどん動いているのに我々は、動いていないじゃないかという、意識が非常に変わらないというか、その辺でどんどんギャップが出てきているというあたりが、組織としても問題があるなと今痛感しているところです。そういうことも市民大学がその一番源流になるところであり、あとに尾を引いていきますので、ぜひ学校のほうもよろしくお願ひしたいと思います。

○高山会長

私からも、16年度に市民大学校を統合したときに、社会教育課はコーディネーター養成講座を持っていて、そちらのほう为中心で、生涯学習という理念よりも、コーディネーター養成に特化してやっているのかなという感じはこの学科のカリキュラムを見ても思います。ですから、これからはやはり公民館とのすみ分けもありますので、ある程度コーディネーター養成に特化しないで、地域の学びのコーディネーターという育成も必要なのかなということで、前にも申し上げましたけれども、やはり学部学科の再編は、例えば2年ものをつくって、ある程度共通しているところは一緒に1年間勉強するとか、2年目に分けていくとか、そういう形も検討しなければいけないので、そこら辺はいずれまた機会があったらカリキュラム検討委員会と合同で協議したり、また、この中で精力的に検討していかなければいけない課題かなと思っております。

○松本委員

3つ話があります。1つは先ほどお話が出ていた件で、「市民大学校とは」というところから始まって、田久保さんも基本論からやりたいというお話があって、それを一つずつ落としていって、例えばボランティア入門学科はこうしましょうという話があった。その

経過といますか、こういう過程があつてこうなりましたよという話を、やりとりも含めてカリキュラムの委員会の方々と意見交換があつて、それから活字になっている分には我々も納得ができる部分というのものもあるんですけども。

それから、鳥海委員から、現在の関係者が入ると、過去を引きずるようなことがあるといけないという話があるのですが、私に言わせると、ボランティア学科を愛している人たちが、あるべき姿に対して、こうですよということで、腑に落ちることがあれば、決して我々は足を引っ張るような結論にはならないと思うので、やっぱりそういう場があつてほしかったなというのは1つあります。これは過去形でしょうけれども。

それから、2つ目は、カリキュラムが変わったら本当に増員するのでしょうかというところが気になっています。私は実を言うと、ボランティア学科のカリキュラムが変わってよかったなと思っているほうですけども、なぜそう思っているかという、結構知的レベルの高い人たちがだんだん増えてきていて、個人個人がそれぞれ十人十色の意見を持つような時代になってきていると思います。また、意見が言いやすい時代になってきている。そういう中で、ボランティアでもスポコミでもどこでもいいですけども、自分に合つて、楽しくて、学べて、社会参加ができて、そういうことがカリキュラムの中から読み取れるのであれば、もしかするとそれは増員につながるのではないかなと。もしそれが見られないようなただの説明だとどうなのかなというのと、カリキュラムが変わりましたというのは、誰がどう宣伝するんだというところも、とても難しいのではないかなと思いました。

だから、池田さんが言われていたように、卒業した後、カリキュラムが変わって、それによって志が叩き込まれて、あそこの学科を出てよかったよというのが広がった後に、増員の可能性というのはよくわかるような気がするんですけども、来年効果が出ますかという、そこまではなかなか応募者が増員するのは難しいかなと。

それから、10年前とか15年前は、「奉仕」という言葉がありました。奉仕の精神でボランティアをしようという部分というのはかなりあつたと思うんです。我々の先輩もそうです。でも、今、奉仕という言葉は死語になっていますね。極端なこと言うと。そういう中で市が望んでいること、もしくは国が望んでいること、それを含めて今の流れに合つて、そういう人たちが活動する場を用意するということになってくると、私は鳥海さんが良いカリキュラムと言われているのでいいのかなとは思いますが、それに本当に応募者の思いにも当てはまるようなカリキュラムになっているのかなというのは若干疑問に思いました。

それよりも今求められているのは、人生100年だとか、AIの話だとか、そういう中でスポーツというのはどうあるべきかとか、そちらのほうで求められているバランスとしては大きいのではないかなということ。

それから、私はあまり詳しくないのに言っている部分があるかもしれないですけども、199人いるスポーツ推進委員の方たちとの関係とか、その辺の位置づけもある程度明確にしておいたほうがいいのではないかなと。今回せっかく議論するのならばと私は思っていました。それはどう解釈するかは別ですけども。

ということで、言いたかったのは2つで、カリキュラムがよくなったということのをどのように宣伝するかというのが1つ。もう1つは、カリキュラムの中身が今の時代の人たちに合うように、これならぜひ入りたいというような、ちょっと言葉は語弊がありますがけれども、楽しくて、やりがいがあって、社会参加をすごく感じるようなカリキュラムに本当になっているのかということも、もう一度見直してもらう必要があるのではないかなと私は感じました。決定されたことなのでいいのかもしれないですけども。

○事務局（田久保）

スポコミのことですか。

○松本委員

スポコミです。かえって、これに入る人ってどういう人が入るのかなと思ったんです。そこら辺は自信を持って言われているので、大丈夫のかなというのはありましたけれども、第三者の目から見ると、ちょっと気になりますねというところ。カリキュラムの専門でやっている方々には、何でそんなことを言うんだなんて言われそうですけれども、そういうふうに感じましたという意見を言いました。

○事務局（田久保）

ありがとうございます。いろいろなご意見をいただくのが貴重だと思うので、ありがとうございました。

○高山会長

確かに学科変更のPRと、これによって来年度の応募者増につながるというんですけども。

○事務局（田久保）

それが一つの今回の運営委員会のテーマではありましたので、それに基づいて一応動いてはいるつもりです。

○高山会長

ほかに何かございますか。川田委員、特段よろしいですか。

○川田委員

スポーツコミュニケーション学科がものすごく内容が変わりましたよね。私、見方がわからなくてごめんなさい。こちらに30年度のスポーツコミュニケーション学科のカリキュラムの内容が出ていますが、新しい31年度では、コミュニケーションスキルを学ぶというふうになっています。これは今度どういう感じで……。

なぜこんな質問をするかという、もう願書の受付が始まる、今度説明会があるというところを考えると、スポーツコミュニケーション学科に限ってもものすごい変更があると、広報委員としてもどういうふうに説明ができるのか、ものすごく難しいなと思いました。でも、この間から言っているように、やはりカリキュラムを大きく変えていかないと増員には結べないということはずっと何度も聞いているので、ここはとでも理解はします。

私も松本委員と同じで、こういうふうに変えたんですよ、どうぞ皆さん、説明を聞きにきてくださいという説明を、どのようにしたらうまく皆さんに反映させられるのかなとずっと疑問に思って、説明を書きとめていました。

そういう意味では、広報委員会をまず開催して、どういうふうにして取り込もうかということ、きつと松本委員のほうから連絡が来るとは思いますけれども、そこが今私は一つ大きな課題だなと感じました。でも、カリキュラムを変えるということも一つの手だてです。なので、そういう意味では、変えていかなければ変動が見られないというのもよく理解しました。

○事務局（田久保）

本当に委員の皆様おっしゃるとおり、どちらか1つではだめなのだろうということで、今回、カリキュラムと広報とで車輪のように2本の柱でやっという、3月のご意見を受けての今のものです。まだ途中経過ですけれども。

特にスポコミにつきましては、今までどうだったかという、体験が多くて、実は健康学科とそれほど変わっていない部分もあって、正直、無料で自分の健康のために入られる方もいらっしゃるような部分がありました。というのは、やはりスポーツコミュニティリーダーを養成するんだということが、なかなかカリキュラム的にもわかりづらかったのかなというところも、今回変えていく大きな要因ではありました。

なので、まずスポーツコミュニティリーダー、地域で人の前に立って、人を束ねて、地

域で活動していくリーダーを養成するために必要なものということで、リーダーシップも勉強しなくてはいけない、組織をつくるというのはどういうことかということも勉強していかなくてはいけないということ、プラス、体のこともわかっていかなくてはいけない。要はスポーツリーダーということで、スポーツの専門知識を全く知らないで地域に出してしまうのか、それとも、少しでも、体育学部の1年生の授業の部分をちょっとかじっている程度ですけれども、そういうことでも市民大学校で学んでもらえればいいのかというところが1つです。

それから、障害者のことを特化しているように見えるのですが、実はこちらの新規事業の説明、目的の中の2番に、障害者の方だけではなく健常者、それから小学生、老若男女、皆さんが活動できる障害者のスポーツというのは、どういう世代、どういう方でも参加ができるスポーツなんです。なので、船橋市パラスポーツ協議会でも目的は障害者スポーツではなく、それをツールとして地域の健康増進を図ることにもなっておりますので、スポーツだけではなくて、先ほどアドバイスを受けた部分でもあったのですけれども、高齢者、それから子供たちとも一緒に活動ができる、そういうものを地域で運営できるような人材をつくるというのが、今回表にはっきりと見えるようなものを目的にスポーツコミュニケーション学科はつくりましたので、今日は表だけなのでなかなかわかりづらいのかもしれませんが、明文化すると非常に端的になって、今までよりわかりやすくなってきたと思います。

○高山会長

議事2はこの程度でよろしいですか。ありがとうございました。

次に、議事第3号に入ります。広報委員会についての報告です。事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（菅野）

広報委員会についてご報告をさせていただきます。資料の21ページになります。8月24日と9月25日の2回、広報委員会を開催させていただきました。この表にあるとおり、委員長に松本委員、川田委員に副委員長ということでお願いして、新年度31年度の市民大学校の学生募集に向けた広報手段の検討をしていただきました。具体的にはパンフレットですとか、入学案内の検討をしていただいたところです。

今年度から実現できることということで、先ほど募集案内でも説明させていただきましたけれども、応募期間を増やしたらどうかというご意見をいただいて、応募期間を長くし

ましようということと、後ほど説明しますけれども、学部・学科説明会の提案があつて、今回開催してみましようという形にさせていただいております。簡単ですけれども、広報委員会2回開催して、今、広報についていろいろな検討をさせていただいている状況です。

○高山会長

ありがとうございました。

何か質問はございますか。

○事務局（菅野）

松本委員、補足があれば。

○松本委員

学部学科説明会はこの後説明するんですか。

○高山会長

この後、まだ議題がありますから。

○事務局（菅野）

議題が後にありますので。

○高山会長

あわせてまたそのときに。

次に、議事第4号、授業見学会についての報告です。事務局よりお願いします。

○事務局（菅野）

資料は、次のページの22ページ、裏を見ていただければと思います。授業見学会につきましては、平成30年度で3回目となります。広報ふなばし9月15日号に募集記事を掲載させていただいて、出張所ですとか公民館等にチラシを置かせていただきました。授業見学会を企画して、今現在やっている最中でございます。この資料のとおり、きょう現在26人の申し込みがありまして、今まで行われた6回の授業に申込者が18人あったのですが、全員18人が参加されております。この後にはスポーツコミュニケーション学科とふなばしマイスター学科の2回の授業が残っておりますが、この授業見学会を見ていただいて、募集のきっかけになっていただければいいかなと思っております。

また、10月11日に行われましたボランティア入門学科の「聴覚障害者にとっての地域社会」という講座の中でケーブルテレビの取材がありまして、12日の「デイリーニュース」というニュースで3回ほど放映されております。

以上でございます。

○高山会長

ありがとうございました。

何かご意見、感想はございますか。よろしいですか。

それでは、次に議事第5号、学部学科説明会について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（菅野）

資料の23ページをごらんください。一番最後になります。平成31年度の学生募集の時期に合わせて、市民大学の学部学科説明会を行いたいと思っております。この説明会は、12月15日、午後2時から、西部公民館の集会室を予定しております。市民大学に応募したいと思っている方に、入学案内ではわからないところがあるので、学部学科の説明会を開催したらどうかという意見を広報委員会の中でいただきまして、この説明会を企画しております。

内容的にはまちづくり学部を各10分程度、いきいき学部の各学科を5分程度事務局が説明をさせていただいて、質問時間をとって1時間半程度の説明会をと考えております。会場ではパンフレット、入学案内の配布を始めて、質問コーナーを設けて個別に職員が対応していければと考えております。

広報につきましては、学生募集と一緒に広報ふなばしに掲載する予定です。また、チラシを作成させていただいて、入学案内と一緒に配架をお願いする予定でございます。

以上です。

○高山会長

ありがとうございます。チラシは別にこれではないですよね？

○事務局（菅野）

これは、こんな感じというイメージで。

○高山会長

これはちょっと固く感じます。

松本委員、補足も含めて何か質問がありましたら。

○松本委員

学部の見学会のほう、人数が増えてきたのはいい傾向だなとは思いますが、前々回から私いつも言っていたのが、セカンドライフをスタートする人たちがふなばし市民大学の学科の説明を聞きたいというよりは、市民大学って何なのということを聞きたいの

が、まず卒業した人の初めての気持ちではないかなということ。それから、その中にどんな学科があるのかということを知って、自分に合った学科を選ぶ。そして1年を託す。そういう意味でいくと、私は学科の見学よりも市民大学の説明をしてほしい。私自身、昔やったときに感じましたけれども、「いきいき学部よりもまちづくり学部のほうがおもしろそうだね」と言っていた参加者が横におりました。

今の学科見学会だけですと、「まちづくり」と聞いただけでも行く気がなくなってしまう方もいると思いますが、こういう形で学部学科説明会というのを開いていただくことによって、バランスがいい、1年を託せるようななどの学科を選ぶかというのにも、いい説明会になるのではないかなと思います。

それから、あまりこだわりませんが、入られた方は修了後どうなるかということに非常に興味を持っているんです。大学に入ると同じですよ。1年を託した後、修了後どうなんだと。その辺のところをどうサポートしていただけるのかというのが、実際の学科説明会では大切だなということと、私自身は優先順位としては、授業参観よりも学部学科説明会というのをできれば2日ぐらいやってほしかったなというのが思いで、私だけではなくて広報委員の方全員が2日はやってほしかったということでした。今年は都合がどうしても1日しかとれないということで1日になりましたけれども、できるだけここに来ていただいて、どの学部がどんなことをやっていて、どの学科が何をやっていて、じゃあ1年間託すにはどこの学科に入ったらいいかという、真面目な方々のステップを踏む説明会になってほしいなと思いました。

それから、テレビ局のJ:COMですか、見せていただきましたけれども、とてもよくできています。カメラマンもなかなかうまいアングルで、コメントする人たちもとても素晴らしいコメントをしていました。

これをすぐ我々の仲間にも見せたいなと思いましたけれども、ああいうふうになったじゃないですか。だとすると、広報としては、こういう学部学科説明会は何か作戦がとれないのか、広報活動として何か手が打てないのかなと感じています。たった1日なので難しいでしょうけれども。

当会の企画運営委員会では、残念ながら、これを見た人はおりませんでした。一番良いのは広報ふなばしだとか地域新聞に載せることだとは思いますが、その辺の手はまだ打てないのでしょうか。

それから、もう一つは、きょうこの場で課長さんもいらっしゃるの、我々のほうでボ

ランティア活性化勉強会というのをやっていて、その中で、「まちづくり出前講座」というのがあるよねと。あれは頭に「まちづくり」という言葉がつく。だとしたら「市民大学校まちづくり学部とは」というタイトルで、行くのは大変かもしれませんが、10人以上集まったら講師を派遣しますよという形でやれば、田久保さんの言っているお金をかけないでというやつにもびったり当てはまる。

田久保さんも私も集客という点ではいつもピリピリしているのですけれども、1人でも集まってくれらるとうれしいですよ。

だから、小さな手でもいいから打つ。打てる範囲では打つという努力をする中の1つとして「まちづくり出前講座」の中に入れていただく。公連協さんが説明に行くのかどうかは別として、どなたかが行っていただいて、4学科のいいところ、悪いところもちゃんと説明していただくといい人が入ってくれるのではないかなということもありました。

今日、伝えておきたかったので伝えさせていただきました。

○高山会長

いい提案ですね。課長、何かありますか。

○社会教育課長

まちづくり出前講座、これまさにうちの課の所管——所管という言い方も変ですけども、受付をやっています。

まちづくり出前講座はどういう講座かというのを簡単に説明させていただくと、いわゆる出前講座ってよくいろいろな市町村がやっているのですけれども、行政などのわからないところとか、これはどうなっているんですかというところ、例えば、障害者の給付制度はすごく複雑ですし、生活保護についてもどういう要件でもらえるのかなど。わからないと、今だとインターネットで調べられるのですが、やはり実務を担当している市の職員が行って説明するのが一番わかりやすいということで、各講座、自分の課としてはこういうことを説明したいですよというのを登録しておきます。それに対して、その登録を見た町内会とかいろいろな団体が、この話を聞きたいからということで社会教育課のほうにお話をいただいて、社会教育課が窓口となってその課に連絡をとって、何日の何時に行ってくださいねという形で、市の職員が説明に行くというのがこの出前講座です。

ですから、当然、市民大学校の説明ということになれば、社会教育課の職員が行くような形になると思います。そもそも、これだけ説明してPRしていく中で、今までなかったというのは、確かに市のほうとして抜けていたところだと思います。これについては、来

年度の募集をつくる期間が決まっているので、あしたからというのは難しいのですが、この出前講座に「市民大学校とは」というものを1個つくらせていただきたいと思います。それは前向きに検討していきたいと思います。

○高山会長

ありがとうございました。

26年度から3年間市民大学校のオープンカレッジを開催し、ここ2年間ほどやっていませんけれども、それにかわる形で応募期間中に学部学科説明会を行うことで、よくPRして多くの市民の方に来ていただければと思います。

何かございますか。よろしいですか。

本日の協議会においてご審議いただき議事は以上ですが、特にご質問、ご意見等がなければ、以上で議事を終了させていただきます。

本日の議事につきましては全て終了いたしました。

なお、議事録の署名を恐縮ですが鳥海委員と花村委員にお願いしたいと考えておりますが、よろしいですか。

(両委員 了承)

○高山会長

ありがとうございました。これで本日の協議会は終了となります。皆さんには議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

最後に事務局から何かありましたら。

○事務局（菅野）

ありません。

○高山会長

どうも、皆さん、本当にお疲れさまでした。

午後3時26分閉会